

なら 植防ニュース

第5回一般社団法人奈良県植物防疫協会 通常総会の開催

平成29年6月7日に、奈良県農業研究開発センター内交流サロン棟で通常総会が開催された。下記の議題について審議し、承認された。

○第1号議案：平成28年度事業報告及び収支決算について

農薬安全啓発事業では、農薬危害防止運動の推進、農薬安全使用研修会の開催、「なら植防ニュース」の発行などを行った。

農薬試験事業では、新農薬実用化試験の実施、農薬展示圃の設置、各種シンポジウム、検討会などに出席した。

有機農産物認定事業では、JAS法に基づいて、有機農産物の生産行程管理者10グループについて認定の継続及び新規認定を行った。

以上の事業報告と総収入額26,811千円、総支出額26,573千円となり、監査報告後承認された。

○第2号議案：公益目的支出計画実施報告については、一般社団法人化に伴い、公益目的支出計画を策定し、年間345千円を農薬安全啓発事業に使い、その赤字は他事業収益で賄う。平成27年度は347千円の支出実績であった。平成51年まで26年間継続的に実施することになる。平成28年9月1日に農業研究開発センターが桜井市池ノ内へ移転したのに伴い、近くに桜井試験地を開設した。

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒633-0046 桜井市池之内130-1
奈良県農業研究開発センター内
TEL0744(47)4861
FAX0744(47)4862(専用)

目	次
第5回一般社団法人奈良県植物防疫協会通常総会の開催	1
H29年度農薬危害防止運動推進会議	2
関西病害虫研究会99回大会	3
登録失効になった農薬	4

役員は改選があり、下記の通りになった。

役職	氏名(所属機関名)
代表理事 会長	近藤晃一(農業協同組合中央会)
副会長	桐山満(奈良県農業協同組合) 井岡勲(毒劇物取扱者協会)
業務執行 理事	田中良弘(農業水産振興課) 岡山健夫(県植防協会)
理事	谷川元一(農業研究開発センター) 前田茂一(病害虫防除所) 田中宇兵衛(農薬商業組合) 松原久展(農業機械公正取引協議会)
監事	澤田兼次(農薬卸商組合) 大東良史(農業共済組合連合会)

平成 29 年度農薬危害防止運動始まる

農薬危害防止運動が 6 月 1 日から 9 月 30 日まで実施される。農薬の使用機会が増えるこの時期に、不適正な使用による危害を防止するため、県農林部、地域振興部、医療政策部、くらし創造部、県土マネジメント部、教育委員会及び農薬関係団体が参集し、推進会議が開催された。

本年度の農薬危害防止運動の実施について農業水産振興課から、農薬の使用基準の遵守等の指導、農薬及びその飛散防止対策、住宅地周辺や養蜂が行われている地域等への影響防止対策指導、販売業者等への関係法令に基づく立入検査の実施、公共水域の水質調査など運動内容が説明された。

農薬危害防止に関する状況や主な取り組みについて報告があった。全国の農薬使用に伴う平成 27 年度の事故被害は、保管管理不良や泥酔等による誤飲、誤食による死亡や中毒が発生しており、28 年には県下でも 1 件の事故があった。

蜜蜂の農薬危害に関する全国調査が昨年度まで 3 年間実施され、我が国では蜂群崩壊症候群（CCD）と断定できる被害は確認されなかった。しかし、水稻の開花期のカメムシ防除による蜜蜂の危害事例が報告され、蜜蜂にはネオニコチノイド、フィプロニルなどの薬剤による影響が大きく、使用する場合には養蜂家と散布者の情報交換による巣箱待避などの被害回避策が必要である。

防除指針は、CD 版から WEB サイトで

閲覧できる「奈良県農薬情報システム」へ変更された。本システムでは最新の農薬登録内容が取得でき、農薬安全使用情報や発生予察情報、防除対策を閲覧できる。

新農薬の登録には作物群分類が新たに導入され、作物群の一部の適用作物で実施した試験成績をもって、当該作物全体の試験成績としての活用が進められる。例えば、果実類の作物群にはかんきつ類、仁果類、核果類、ベリー類等の小果実類等の作物群が設定される。

病虫害防除所から発生予察情報について報告があり、稲ばか苗病、カキ炭疽病、イチゴハダニ類、キャベツ菌核病、キク白さび病などはやや多発生が予想される。

農薬安全使用研修会の開催が以下のように予定されており、農薬使用者や販売者など関係者の積極的な参加が期待される。

日時：7 月 21 日(金)13:30～16:20

場所：リサイクル館かしはら 3F

研修内容：

「農薬リスクの安全性評価」

奈良県農業研究開発センター

指導研究員 西川 学 氏

「農薬使用におけるトラブル及びその対処法」 緑の安全推進協会派遣講師

「農薬用保護マスクの正しい使い方」

十文字学園女子大学大学院

人間生活学研究科教授 田中 茂 氏

受講申込書に記入の上 7 月 14 日までに県農業水産振興課(fax：0742-22-9521)へ送付してください。

関西病虫害研究会第99回大会報告

奈良県病虫害防除所 芳田 侃大

5月19日、「大阪府立大学 I-site なんば」で関西病虫害研究会第99回大会が開催され、病害5講演、虫害11講演の発表があった。その幾つかを紹介する。

愛知県の田中はるか研究員から、オンシツコナジラミを識別するための LAMP 法による検出技術について報告があった。オンシツコナジラミはトマト退緑ウイルスを媒介し、トマト黄化病を引き起こすなど、本県の夏秋トマト等でも問題となっている。また、本種はタバココナジラミとの外部形態による識別が困難であるが、両種は殺虫剤感受性が異なるため、迅速かつ正確な識別が必要である。本手法では DNA 抽出操作を行わず、虫体を磨砕しただけのサンプルを用いて、遺伝子増幅法の一つである LAMP 法を行った。その結果、オンシツコナジラミはいずれも陽性反応を示し、本手法において両種の識別が可能であることが示された。また、本手法は経験が浅い普及員でも簡易に識別でき、生産現場での活用が可能であると考えられた。

大阪府の金子修治研究員から、大阪府内の施設栽培キュウリのミナミキイロアザミウマの殺虫剤感受性の現状について報告があった。大阪府では、同一施設で半促成ナスー抑制キュウリの作付けが盛んであるが、ミナミキイロアザミウマに有効な薬剤は非常に少なく、有効薬剤の把握のために定期的な感受性モニタリングが必要である。本報告では、アベルメクチン系のエマメクチン安息香酸塩乳剤(アフーム乳剤)の効果が高いことが示された。一方、過去に比べて、アバメクチン乳剤(アグリメッ

ク乳剤)の効果が低下していることも示された。また、本種のスピノシン系に対する薬剤効果は低いことが示され、これは本県も同様の傾向であった。今後は、薬剤抵抗性の発達をできる限り遅延させるため、天敵利用や赤色ネットによる物理的防除を組み合わせる IPM 体系の推進が、重要であることが示された。

大阪府の西村幸芳研究員から、「菌体ドロップ法によるいもち病菌の QoI 剤耐性菌検定」について報告があった。QoI 剤耐性菌は 2012 年に九州で初めて報告されて以来、現在 21 府県に拡大しており、本県でも 2015 年に一部で確認されている。耐性菌を早期に発見し蔓延を防止するためには、迅速かつ正確に低コストでモニタリングする必要がある。本手法は、従来のディスク法による検定と比較して、判別が容易で前培養に要する日数が少なくて済むことが示された。本手法は、耐性菌の発生を警戒するためのモニタリング調査に有効であると考えられた。

このほか、農研機構野菜花き研究部門の村田未果研究員から、「赤色光がミカンキイロアザミウマの植物に対する行動に及ぼす影響」について報告があった。本報告では、施設栽培で日中に赤色光を使用することで、本種への防除効果が示された。今後、本種以外の害虫に及ぼす影響や赤色光による植物体への影響について調査が進められることが報告された。

登録農薬失効情報(2017. 3. 1~2017. 5. 31)

農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名	失効日
殺虫剤				
4335	メタアルデヒド粒剤	ナメキール	日本農薬	4/30
12022	DMTP乳剤	スプラサイド乳剤40	全農	3/15
12158	DMTP水和剤	スプラサイド水和剤	全農	4/26
12406	ジメトエート乳剤	サンケイジメトエート乳剤	琉球産経	5/4
13933	MPP粒剤	ヤシマバイジット粒剤	協友アグリ	4/24
13935	MPP粒剤	サンケイバイジット粒剤	サンケイ	4/24
16743	トラロメトリン乳剤	日曹スカウト乳剤	日本曹達	4/13
18880	検疫用臭化メチルくん蒸剤	検疫専用アサヒメチルプロマイド	AGCIアイテック	3/1
19223	フィプロニル粒剤	プリンス粒剤	BASFジャパン	4/25
19224	フィプロニル粒剤	日産プリンス粒剤	日産化学	4/25
19566	アセフェート水和剤	家庭園芸用ホクコーオルトラン水和剤	北興化学	3/1
20795	カルボスルファン粒剤	FMCアドバンテージ粒剤	IFEMシゲミカルズ	4/12
22164	クロルピクリン・D-Dくん蒸剤	DASソイリン	タケミカル	5/14
22374	イミダクロプリド・エチプロール粒剤	キラップAD粒剤	ハイエル	4/19
23470	シアントラニリプロール水和剤	デュポンエスペランサ	デュポン・プロダクツ	5/16
殺虫殺菌剤				
14552	BPMC・MEP・カスガマイシン・フサライド粉剤	カスラブスミバッサ粉剤DL	北興化学	3/30
14612	MEP・チオファネートメチル粉剤	ホクコースミトップM粉剤	北興化学	5/29
16701	MEP・トリシクラゾール・バリダマイシン粉剤	ビームバリダスミ粉剤3DL	住友化学	4/8
16768	エトフェンブロックス・フサライド粉剤	ホクコーラブサイドトレボン粉剤DL	北興化学	4/13
18371	カルタップ・バリダマイシン・フェリムゾン・フサライド粉剤	ブラシンパダンバリダ粉剤DL	住友化学	5/19
18372	エトフェンブロックス・カルタップ・フェリムゾン・フサライド粉剤	ブラシントレパダン粉剤DL	住友化学	5/19
19230	フィプロニル・イソプロチオラン粒剤	ローヌ・プーランフジワンプリンス粒剤	BASFジャパン	4/25
19247	テブフェノジド・フルトラニル粉剤	ロムダンモンカットF粉剤DL	日本農薬	5/27
20820	イミダクロプリド・カルプロパミド水和剤	ウィンアドマイヤー顆粒水和剤	ハイエル	4/26
20831	ジノテフラン・メトミノストロピン粒剤	オリブライトスタークル1キロ粒剤	三井化学アグリ	4/26
23242	エチプロール・テブフロキン粉剤	トライ2K粉剤DL	Meiji Seika	4/27
殺菌剤				
7417	銅水和剤	KBW(ケービーダブル)	ホクサン	3/31
14550	カスガマイシン・フサライド粉剤	ホクコーカスラブサイド粉剤DL	北興化学	3/30
18360	イブコナゾール水和剤	クミアイテクリード水和剤	クミアイ化学	5/19
23299	フルオピラム水和剤	オルフィンフロアブル	ハイエル	3/28
23823	フルオピラム水和剤	ホクサンオルフィンフロアブル	ホクサン	3/28
除草剤				
17581	グルホシネート液剤	日農バスタ液剤0.2	日本農薬	5/17
18283	ピラゾスルフロリエチル・メフェナセット粒剤	バイエルアクト粒剤	バイエル	3/5
その他				
5734	展着剤	トクエース	三井化学アグリ	4/17